

平成三十一年四月二十一日 大分^{ひかりのやかた}偉光会館清魂の儀

神 示

信者の思いを受けて 神は今 入魂の九字を使者に切らせん
この地に神^{神魂}の力が宿りて 皆^{信者}の心は大きく変わる

「教え」を学び 「心」^{人生}に生かす努力が必要

神示「真理」が皆^{信者}の心^{人生}を 悔いなきものへと 導き 守る

職員 係は 心を一つに重ね

神魂が導き 守る 今の時代の姿^{価値}を 信者に伝えること

得徳^{えとく}の心が引き出され ますます皆^{信者}の心^{人生}は輝き 喜び多いものとなる

「偉光会館」に命^カが宿る

信者は 「心の道」^{正道}を学び 神の手の中 「心」守られてゆく

「運命」は磨かれ 今を「生きる」喜びを味わえる

真理なき知識に 心迷い 惑わされ 「道」^{人間}欠く者が多い

使者を通し 神は「真理」を表している

「教え」を学び 我が「人生」心迷うことなし

神 示

「教え」を学び 心の支えに「生きる」者は皆

「実体」を引き上げられ 「運命」に重なる人生が歩める

「生きる」喜びを味わい 家族 縁者の心はますます重なり

六つの花びら咲き誇る人生を手にできる

職員 係は 「教え」に生きて

開運かなう人生「心の手本」^姿を 信者に示す

「偉光会館」開所かなえて 皆^{信者}の願^{開運}いは 神の手の中 かなうと申す

おめでとう